

## ●各教科の考察

国語	2 学期は、全ての項目で高い水準を維持しているが、「授業終わりの振り返り」や「家庭学習への取り組み」に繋がるための工夫や改善が必要である。 今後は、単元計画から意識的にして改善を図り、生徒の内発的な動機付けを喚起できるよう、これまで以上に「生徒に疑問を投げかけ考えさせる」授業などの工夫をしていく。
地歴公民	2 学期は、複数で課題解決を図る授業を取り入れた結果、生徒主体の授業についての評価が向上した。 基礎的な学力を「社会で生きる力」として定着させるため、今後も「生徒に考えさせる」場面を多く作っていききたい。また授業の見通しを明確にしたうえで、知識を定着させるためのプリントや教材を教科全体で工夫し取り組んでいきたい。
数学	2 学期は、ほぼ横ばいの数値ではあったものの、授業の取組みに関する評価では数値の向上が見られ、家庭学習の数値も向上した。しかし、特定の単元では、授業内容の難しさから評価が下がってしまった項目もある。 今後は、これまでと同様に生徒の活動を取り入れた授業を行いながら生徒主体の授業を実践していくとともに、難しい単元である場合に「いかに生徒から引き出すか」というような指導方法の工夫をしていきたい。
理科	2 学期は、全ての項目でほとんどの項目で数値の向上が見られた。ただし、家庭学習での数値がほぼ横ばいであった。 今後は、生徒が積極的に取り組める授業環境を維持していくと同時に、家庭学習へ繋がる指導の工夫について改善していく。また、基礎をしっかりと学習した上で、演習を繰り返すことが必要である。また、予習・実践・復習のサイクルで授業の理解度を深めるなど、意欲的に取り組める環境づくりにも努める。
体育	2 学期は、ほとんどの項目で高い数値を維持することができた。体育で、活動時間を確保し生徒が自ら取り組む授業を実践し、保健では、生徒の主体的な学習態度の育成に取り組んだ。ただし、「生徒同士での話し合いや意見交換」での評価が低い状態にある。 今後は、体育・保健ともに、グループ活動などを実践していくなかで生徒が主体となって活動・発言できる機会を作っていけるよう工夫していく。
芸術	2 学期は全体として飛躍的な数値の向上が見られた。これは授業のみならず、学校にも慣れ、授業の流れもつかみ、各々課題に取り組んでいることも向上した要因の一つであると考えられる。また、1 学期の受動的な活動から、自ら課題を見つけて取り組むという活動サイクルに推移しているようである。 今後も教材を精査して、日々の授業の工夫をしていきたい。
英語	2 学期は、ほぼ横ばいの数値となった。コミュニケーションをとりながら課題解決を図るなど積極的な姿勢がうかがえる一方で、授業の見通しに十分な理解がなかったためか数値の低下も見られた。 今後は、日々の学習目標を共有した授業へと改善していく。また、音読や単語の確認、プレゼンテーションなどの機会を引き続き設定しながら、生徒の授業の理解と学習目標の達成を積み重ねていきたい。
家庭	2 学期は、全体的な数値の向上が見られ、授業でもグループ内で協力や積極的な意見交換を行いながら学習できていた。一方で、授業での学びを実生活に生かすできていないとの自己評価が多かったようである。 今後は生徒の主体性を引き出すことができるよう授業の工夫をしていきたい。また、授業後の振り返りやまとめを丁寧に行い、家庭生活でつなげることで生活力を向上させることができるよう促していく。
情報	2 学期では、すべての項目で数値の向上が見られ、家庭学習の数値も同様に向上した。2 学期の授業内容は、専門的な内容が多かったが、積極的に課題を解決しようとする姿勢が見られた。ただ、実践的に学習しにくい内容もあり、苦勞していた生徒も多かった。 今後は、実践的な学習が難しい単元における学習方法をの工夫改善をはかり、身につけた知識や技能を実生活につなげられるよう工夫していく。